

6 環境の保全と創造のための基盤づくり

6-1 環境情報の総合的な収集・提供体制の確立

1 環境情報センター(富士山科学研究所)

富士山科学研究所の環境情報センターは、富士山の自然や地域の環境についての情報を提供しています。

本センターでは、自然科学・環境に関する図書・DVD等を年々充実させていることに加え、富士山に関する資料の充実を図っています。さらに「ニューズレター」「メールマガジン」の発行等により、研究所の各種活動の紹介も行っています。



環境情報センター

環境情報センター施設概要

- 閲覧時間 午前9時～午後5時
(休館日:年末年始・蔵書点検期間・電気設備点検・雪による臨時休館)
- 図書閲覧コーナー 図書の閲覧、調査研究ができます。図書は館外貸出も受けられます。また、直接来所しなくても、最寄りの図書館を通して研究所の資料の検索・貸出ができます。
- DVD(ビデオ)コーナー 自然環境に関するDVD等を視聴ができます。
- パソコンコーナー 自然環境情報の検索ができます。
- バードウォッチングコーナー・ブラウジングコーナー 野鳥の観察や、雑誌の閲覧ができます。

令和5年度発行「ニューズレター」



環境情報センター蔵書数等（R6.3.31 現在）

図書	和書	25,372 冊
	洋書	518 冊
	合計	25,890 冊
AV 資料	ビデオ	584 点
	DVD	288 点
	CD-ROM	340 点
	合計	1,212 点
逐次刊行物	和洋雑誌	755 タイトル
その他	地図等	231 点

令和 5 年度利用実績

環境情報センター利用者数			3,449 人
図書個人貸出	人数		306 人
	図書貸出数		846 冊
	AV 貸出数		26 本
図書相互貸出	貸出	件数	3 件
		冊数	3 冊
	借受	件数	5 件
		冊数	5 冊
図書団体貸出	件数		1 件
	冊数		60 冊
AV 利用	人数		7 人
	本数		13 本
レファレンス（調査相談）			38 件
学習用 PC「しえん君」 利用人数（H22. 10 から提供）			利用中止

なお、環境教室等の参加者を含む富士山科学研究所全体の来館者数は次のとおりです。

富士山科学研究所来館者数（令和 5 年度）

区 分	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	計
一 般	4,908 人	6,784 人	4,746 人	1,275 人	17,713 人
団 体	2,808 人	2,789 人	2,235 人	315 人	8,147 人
計	7,716 人	9,573 人	6,981 人	1,590 人	25,860 人

2 提供体制の確立（森林政策課、環境・エネルギー政策課、自然共生推進課）

（1）県ホームページ

県では、環境保全活動を広めていくため、県ホームページに広く情報提供しています。ここでは、「やまなしの森林」「やまなしの環境」「やまなし水政策ビジョン」の3つのページを紹介します。

①『やまなしの森林』

山梨県の森林・林業に関する取り組み、計画・イベント情報など、次の項目ごとに構成しています。

やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン

県では、森林・林業・木材産業を取り巻く情勢の変化等に対応し、森林資源の有効活用による林業の成長産業化を実現するとともに、県民の暮らしを支え、様々な恩恵をもたらす森林の公益的機能の強化を図るため、新たに「やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン」を令和2年3月に策定しました。

このプランは、山梨県総合計画で定めた施策の方向性を踏まえ、本県の森林・林業・木材産業が目指す将来像を描いた上で、「森林の公益機能の強化」と「林業の成長産業化の推進」を2本の柱とし、取り組みの基本方針と施策の展開を示しています。

リーフレット「やまなしの森林」

山梨県の森林・林業・木材産業の概要を紹介するリーフレット「やまなしの森林」を掲載しています。

関連する計画等

山梨県が定めた森林に関連する計画や方針等を紹介しています。

- ・地域森林計画
- ・県有林管理計画
- ・森林セラピー推進指針
- ・山梨県緑化計画

やまなし森のイベント情報

「森林環境教育」や「木育」など森に関するさまざまなイベントを紹介しています。

森林公園だより（県民の森、武田の杜、金川の森）

森林と親しんでもらう森林公園の紹介と活動を紹介します。

森林文化の森

人と森林との関わり合いを実感する場所、自然への回帰を目指す場所として整備した「森林文化の森」について、事業のねらいや整備方針などを掲載しています。

やまなし森づくりコミッション

森づくり活動フィールド・森林づくりイベント・指導者などの紹介や、活動計画や企画の提案など、森づくり活動を様々な形で支援します。

やまなしで過ごす「山の日」

国民の祝日「山の日」の意義や山梨の山や森林の魅力などに関する情報、県内外の方々が山に親しめるよう実施している様々な事業を紹介します。

FSC森林管理認証

県有林は、持続可能な森林経営をさらに推進していくためにFSC森林管理認証を取得、その取組を紹介します。

山梨県森林審議会

「山梨県森林審議会」の会議録を公表しています。

恩賜林について

3月11日は恩賜林記念日。恩賜林の沿革や恩賜林記念式典などを紹介します。

林業・木材産業情報リンク集

林業・木材産業に関するリンク集です。

山梨県林業統計書

山梨県の林業統計データを掲載しています。

②『やまなしの環境』

山梨県の環境に関する計画や取り組み、環境団体の情報など次の項目ごとに構成しています。

山梨環境基本条例

平成16年4月1日に施行した「山梨県環境基本条例」です。

山梨県環境基本計画

「山梨県環境基本条例」で定めた環境の保全及び創造に関する施策の方向等を明らかにした、環境施策に関する基本計画です(平成26年3月に「第2次山梨県環境基本計画」を策定し、令和元年11月に中間見直しを行いました)。

環境関連の条例、計画等

- ・山梨県太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する条例
- ・山梨県地球温暖化対策条例
- ・山梨県地下水及び水源地域の保全に関する条例
- ・山梨県地球温暖化対策実行計画
- ・やまなしエネルギー環境マネジメントシステム
- ・山梨県生活排水処理施設整備構想
- ・第4次山梨県廃棄物総合計画
- ・山梨県災害廃棄物処理計画
- ・山梨県レッドデータブック
- ・やまなし「水」ブランド戦略
- ・やまなし水政策ビジョン

富士山の環境保全

富士山周辺の環境保全に取り組んでいる施設の紹介です。

- ・富士山科学研究所
- ・富士山世界遺産センター
- ・富士山ボランティアセンター

山梨県環境保全審議会

自然環境保全法第51条第2項(自然環境保全、鳥獣の保護繁殖及び狩猟、温泉)に関する重要事項及び環境基本法第43条第1項(環境の保全)に関する基本的事項の調査審議等を行う「山梨県環境保全審議会」の開催案内や会議録等を公表しています。

環境白書「やまなしの環境」

山梨県における環境の現状とその保全に向けた対策をまとめた環境白書「やまなしの環境」の各年度版を紹介しています。

環境NPO・団体の情報

「やまなしNPO情報ネット」では、県内の活動しているボランティア・NPOの情報などを提供しています。

環境関係例規集

山梨県の環境に関する条例等を掲載しています。

③『やまなし水政策ビジョン』

本県の水政策に関する総合的な指針である「やまなし水政策ビジョン」を掲載しています。

やまなし水政策ビジョン

「持続可能な水循環社会を目指して」を政策目標として定め、この目標を実現するために、「育水と保全～健全な水循環の維持～」、「魅力発信と活用～水を活かした地域・産業の振興～」、「連携と相互理解～水を通じた交流の活性化～」、「暮らしと防災～安全な水の確保と暮らしを守る治水の推進～」の4つの基本方針に基づき、健全な水循環系の構築と水を活かした地域振興を図るための指針として、平成25年6月に策定しました(従来の「山梨県水政策基本方針」は、「やまなし水政策ビジョン」の内容として引き継がれました)。

(2) 環境情報提供事業(環境ライブラリー事業)(自然共生推進課)

県民が環境問題に関心を持ち、実践活動に参加し、環境に配慮した生活スタイルへの転換が進むよう、「環境情報コーナー」の設置、ビデオテープの貸出しなど「ライブラリー事業」を実施しています。

○内容(令和5年度実施内容)

- ・移動情報コーナー(パネル、環境にやさしい商品等の展示)
- ・ビデオライブラリー
- ・パンフレットの提供

6-2 環境モニタリング・環境科学研究の推進

1 主な環境モニタリングの内容(大気水質保全課)

県が実施する主な環境モニタリングの内容は、次のとおりです。

(1) 大気汚染常時監視

大気汚染防止法に基づき大気汚染の状況を把握するため、一般環境大気測定局10局及び自動車排出ガス測定局2局の合計12局で窒素酸化物や浮遊粒子状物質等による汚染状況を常時監視している。

また、ベンゼン、トリクロロエチレン等の有害大気汚染物質について8地点においてモニタリング調査を実施している。

(2) 公共用水域及び地下水の水質の常時監視

河川、湖沼の水質の状況を定期的に把握し、各種水質保全施策の基礎資料とするため、53地点においてBOD、CODなどの環境基準項目等の水質調査を実施。また地下水の状況を定期的に把握するため、概況調査を行い、過去の調査により環境基準を超過等し、継続的に監視するためモニタリング調査を実施する。

(3) ダイオキシン類の調査

ダイオキシン類による一般環境中の汚染状況を把握するため、大気2地点、公共用水域6地点、地下水9地点及び土壌6地点の調査を実施(令和5年度)。

(4) 騒音・振動の調査

幹線道路沿道地域の生活環境の保全を図るため、自動車騒音の常時監視を行う。

(5) 地盤沈下の調査

地盤沈下を未然に防止するため、一級水準測量調査や地下水位観測を行い地盤沈下の状況を把握する。

大気汚染常時監視、公共用水域及び地下水の水質の常時監視、ダイオキシン類の調査、騒音・振動及び地盤沈下に係る調査結果については、「2 安心・安全で快適な生活環境づくり」及び資料編に掲載しました。

2 富士山科学研究の推進

(1) 富士山科学研究所の取り組み(富士山科学研究所)

富士山科学研究所は、日本のシンボル・富士山に様々な角度から光を当て、世界共有の財産として“守り”、“活かす”ための方策を科学的に追求しています。平成9年に開所した山梨県環境科学研究所で積み重ねた研究の成果に根ざし、さらに富士山の知を集積し、その情報・成果を発信しています。

研究活動は、研究部を構成する「自然環境・共生研究科」及び「富士山火山防災研究センター」の各研究部門において、富士山に関する研究に対してプロジェクトチームを構成し戦略的に取り組む「富士山研究」、研究者が地域環境について基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに総合理工学研究機構が統括する領域横断的な共同研究や緊急性の高い行政課題に対応するために取り組む「成長戦略研究」、「特別研究」などを進めており、その成果を着実に積み重ねてきています。主な研究活動の状況は次のとおりです。

富士山研究	富士北麓地域における侵略的外来植物の防除支援システムの開発と社会実装に向けた研究	R5～R7
	富士山の最近 5,600 年間の主要テフラ層序に関する研究	R5～R7
	種分布モデルを基礎とした富士山の自然環境モニタリングシステムの開発	R3～R5
	富士山麓と周辺山地におけるニホンカモシカの保全生態学的研究	R3～R5
	富士山における落石事象の現地観測技術の開発と落下過程の解析	R5～R7
	保全メッセージが人の意識に及ぼす影響に関する研究:富士山での外来植物防除策を事例に	R3～R5
基盤研究	富士山のマグマ供給系解明に向けた基礎研究	R4～R6
	富士北麓の採取文化が維持されてきた社会的背景に関する研究	R5～R7
	自然災害にかかる継続的な学校防災計画改善に関する研究	R5～R7
	富士北麓におけるコウモリ類のねぐら生態および採食生態	R3～R5
特別研究	河口湖の水質浄化のための基礎的研究	R3～R6
	効果的な火山防災マップのあり方に関する研究	R5～R7
成長戦略研究	富士山の野生動物管理に向けた生態観測ネットワークの開発	R4～R6
	富士山の山岳ハザード検知のための空振観測研究	R5～R7
	富士山の災害対応に資する管理者向け情報共有プラットフォームの整備	R3～R5
総理研研究	富士山噴火の減災に資する実験教材の開発	R4～R6

(2) 森林総合研究所(森林総合研究所)

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立され、その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応しています。

森林の持つ環境保全や木材生産をはじめとする多面的機能をより高度に発揮させるための調査研究を

行うとともに、再生可能資源である木材やきのこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な木材生産作業システムの確立、木質バイオマスの有効活用技術の開発に取り組むなど、幅広い行政課題に対応しています。試験研究活動の状況は次のとおりです。

研究目標	部門	研 究 テ ー マ	期間
森林資源の造成と管理技術の確立	生産	希少植物等の生息域外保全研究	R1-R8
		高齢級人工林の適切な管理技術に関する研究	R2-R5
		トリュフ栽培に適した森林環境に関する研究	R3-R5
		森林空間を利用した山菜等栽培方法に関する研究	R3-R5
		カシノナガキクイムシ発生予察	R3-
		ヒノキ花粉症対策品種の円滑な生産支援	R3-R6
		カシノナガキクイムシ生息状況モニタリング	H24-
		再造林の低コスト化に関する研究	R4-R7
		カシノナガキクイムシの被害拡大に及ぼす因子に関する研究	R4-R5
		山梨県産キノコの抽出成分に関する研究	R4-R6
森林環境保全技術の確立	環境	山梨県におけるコウヨウゼンの植栽可能性に関する研究	R1-R5
		県有林モニタリング事業	H19-R8
		ニホンジカによる鉄道衝突事故の要因解明と対策に関する研究	R3-R5
		小規模流域における土砂流出対策のための水文地形的要因に関する研究	R3-R6
		ニホンジカによる植生への現在の影響は深刻なのか？過去数千年の個体群動態からの検証	R3-R6
		森林環境税モニタリング調査	H25-
		富士スバルライン沿線緑化試験	S43-
		ニホンジカとその個体数管理が森林限界・樹木限界に及ぼす影響の解明	R2-R5
		水源涵養機能の確保に向けたニホンジカと森林下層植生の管理に関する研究	R1-R5
		落葉広葉樹伐採後の更新初期過程に関する研究	R4-R6
		針広混交林化のための間伐手法に関する研究	R4-R5
森林資源活用技術の確立	資源利用	UAV、ICT 機器を活用した森林整備事業の業務効率化	R3-R5
		産業用マルチコプターを用いたマツクイムシ防除等の検討	R3-R5
		素材生産性向上に着目した工程管理手法の検討	R3-R5
		カシノナガキクイムシ被害木の有効利用に関する研究	R4-R5
		県産構造用製材品の品質管理基準に関する研究	R4-R5
		デジタル木材検収システム検証試験	R4-R5
		下刈り作業の機械化に向けた研究	R4-R6

(3) 衛生環境研究所(衛生業務課)

衛生環境研究所は、県関係部局との密接な連携のもと、県民の公衆衛生の向上と、より良い環境の保全を図るとともに、地域における健康危機管理に対応するため、衛生・環境行政の科学的、技術的中核として、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供を行っています。

環境に関わるものとしては、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、環境放射能、温泉及び環境指標生物等の試験検査や調査研究、技術指導を実施しています。

研究テーマ	期間
河口湖、精進湖、本栖湖のCODに関する研究	R4～R5
県内「名水」の水生生物による評価とその効果的発信	R4～R5
ブタクサの花粉飛散調査と気象データの解析	R5～R7

(4)産業技術センター(スタートアップ・経営支援課)

産業技術センターは、県内企業の発展と経済振興のため、技術支援、研究開発、人材育成、情報提供、技術移転・事業化支援を5つの柱とし、県内企業支援を行っています。環境に関しても企業の環境保全活動を支援するとともに、水素・燃料電池に関する研究や農産物の残渣を有効利用した研究、天然素材に発熱保温効果を付与する研究にも積極的に取り組んでいます。

試験研究機関	研究テーマ	期間
産業技術センター	CNF技術を応用した新規和紙製品開発	R4～6
	水素・燃料電池システムの多用途展開に関する研究	R4

ア 総合農業技術センター(農業技術課)

環境と調和した農業生産技術の開発のために、家畜ふん堆肥などの有機物由来肥料の活用試験や環境への負荷低減を図るため野菜類の有機栽培の実証、土壌の適正な養分管理技術について研究を行っています。

また、効率的な病虫害防除法の確立について検討するとともに、県内農耕地土壌の理化学性に関する調査を行っています。

さらに、土壌の炭素量を増加することで、人の経済活動によって発生する大気中の二酸化炭素の増加を抑制するという考え方に基づく国際的な取り組みである「4パーミル・イニシアチブ」に日本の都道府県で山梨県が初めて参加し、炭素貯留方法として果樹園から出る剪定枝を炭化した「バイオ炭」や草生栽培等を利用する研究や現地実証を実施しています。更にこの取り組みにより生産された農産物等を認証し、新たなブランドとして幅広くPRする取り組みを開始しました。

イ 果樹試験場(農業技術課)

環境にやさしい農業を推進するため、環境への負荷軽減に活用できる安定かつ効率的な防除技術の開発や、可給態窒素量を考慮した新しい施肥基準の確立を進めています。また、ブドウの着色期にあたる夏季の温度上昇は、ブドウの着色に悪影響を及ぼし、高品質安定生産の阻害要因となっていることから、環境変動に対応した遺伝的に着色性の優れた赤色系および黒色系の新品種の開発に取り組んでいます。さらに醸造用ブドウにおいても、本県の気候に適し、地球温暖化に対応した新たなフラッグシップとなる欧州系品種の選抜に取り組んでいます。

ウ 畜産酪農技術センター(畜産課)

暑熱環境下における肥育豚、肉用鶏の生産性低下や鶏卵の品質低下に対応した飼養管理技術と、耐暑性に優れる暖地型牧草の利用技術の研究を行っています。

また、採卵鶏や種鶏の窒素排出量を低減させる養鶏飼料の開発や温暖化により荒廃した草地の生産性向上と高栄養化を図る追播技術の確立について取り組んでいます。

試験研究機関	研 究 テ ー マ	期 間
総合農業 技術センター	県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握	S54～
	有機物施用土壌における地力窒素の評価	S50～
	新農薬の効果査定	S54～
	薬剤に対する耐性菌及び感受性低下害虫のリスク管理	H26～
	本県の野菜栽培における生分解マルチの適応性試験	R2～R5
	有機質資材による持続可能な農業技術の確立	R2～R6
	野菜栽培ほ場における温室効果ガス亜酸化窒素発生抑制技術の確立	R5～R7
	果樹や野菜におけるバイオ炭を用いた土壌炭素貯留効果の検証	R5～R7
果樹試験場	環境に配慮した病虫害防除法の改善（有効薬剤の検索及び防除法の改善）	H25～
	着色系オリジナル品種の育成	H29～R8
	山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜（ワイン特性の解明）	R5～R7
	ブドウとモモの新しい窒素施肥基準の作成	R5～R7
畜産酪農 技術センター	暑熱時における卵重増加のための栄養調整技術の開発	H30～R4
	不耕起および簡易耕を活用した飼料用トウモロコシの省力栽培技術	R2～R4
	硝酸性窒素等の規制強化に対応した養豚汚水処理技術と浄化植物の利用技術の確立	R2～R4
	ビニールハウス豚舎の快適性に配慮した肉豚生産技術の開発	R3～R4
	ブロイラーにおける暑熱時の生産性低下防止技術の開発	R3～R5
	暖地型牧草の栽培利用技術の開発	R4～R6
	採卵鶏における気候変動影響予測	R5～R6
	生産性を維持しながら温室効果ガス削減を可能とする養鶏飼料の開発	R5～R7
	追播適性に優れるライグラス新品種を用いた省力的な草地の高位安定生産技術の確立	R5～R8

エ 水産技術センター（食糧花き水産課）

魚類生息環境の保全に関する試験研究調査や希少魚に関する調査研究を行うと共に、関係者へ指導普及を行っています。

試験研究機関	研 究 テ ー マ	期 間
水産技術センター	魚食性鳥類対策の効率化	R2～R5
	コクチバスの効率的駆除技術の開発	R3～R5
	クニマスの保全と養殖に関する研究	R4～R8

6-3 国際協力の推進

1 国際環境交流事業（富士山科学研究所）

富士山科学研究所は、本県の将来を見据え、予見・予防的な視点に立った環境行政を支援することを基本姿勢として、「研究」「教育・情報」「広報・交流」の各機能を通じて、自然と人との生活が調和した地域の実現に向けて事業を展開しています。「広報・交流」においては、富士山・環境をテーマとして人や情報の交流を活発にするため、県民の方々や地域との交流、国内外の研究者、研究機関との交流機会等を提供しており、毎年国内外の研究者を招聘し、一般向けに実施している国際シンポジウムについて、令和 5

年度は「大規模噴火による火山近傍への影響と対応」をテーマに行いました。

国際シンポジウム 2023

○開催日 令和 5 年 11 月 4 日

○テーマ 「大規模噴火による火山近傍への影響と対応」

○開催場所 富士山科学研究所ホールおよびオンライン配信によるハイブリッド開催

○内 容

第 1 部 大規模噴火による火山近傍への影響と対応 ―国内外の事例から―

講演 1 「インドネシアにおける火山災害対応について」

Raditya JATI (インドネシア国家防災庁 政策システム・戦略 副長官)

講演 2 フィールドマッピングからリスク分析 ―イタリアの火山島における ADVISE モデルの開発と適用― Sébastien BIASS (University of Geneva)

講演 3 「富士山周辺の火山複合災害における避難経路状況の見える化」

本多亮 (山梨県富士山科学研究所)

講演 4 「富士山噴火災害避難計画策定における溶岩流を考慮した車両避難シミュレーション」

佐多宏太 (トヨタ自動車(株) 未来創生センター)

第 2 部 パネルディスカッション ―火山近傍における対応について―

コーディネーター：吉本充宏 (山梨県富士山科学研究所)

パネリスト：Sébastien BIASS (University of Geneva)

Christina MAGILL (GNS Science)

本多亮 (山梨県富士山科学研究所)

佐多宏太 (トヨタ自動車(株) 未来創生センター)